

題 片道9時間かかる銭洲で底魚の漁業調査を行いました。(令和3年度)

江の島丸

本県のサバは三陸道東沖から伊豆諸島周辺に来遊し産卵をした後、相模湾に入り定置網などで大量に漁獲されます。その際にサバの通り道となっている漁場として、釣り人の間では大物釣りとして有名な銭洲があります。その場所は伊豆半島の先端である石廊崎より約70km南にあり、「高級魚であるムツやメダイなどの好漁場でもあるので漁師が行けば銭になる。」ということから銭洲と命名されたそうです。「江の島丸」でこの場所へ行くには往路だけでも9時間かかります。それでもここで調査を行うのには大きく2つの理由がありました。



1つ目の理由は、神奈川県漁師がここまで来て操業しているためです。しかし、常に魚を漁獲できるわけではありません。その時の潮流や水温など外的要因に作用されてしまうため、「江の島丸」で調査をすることが大切になります。

2つ目の理由は、その年に神奈川県沖に回遊してくる魚種やその量の判断基準の1つとしているからです。具体的には、調査で得られたサンプルから研究員が体長や体重、成熟度を分析し、海洋観測データから水温や潮流を加味することで、その年の資源量や本県への来遊について予測していきます。これらの情報を提供することにより、漁業従事者の操業計画などに役立てられます。

沖合の調査を行うのはとても大変なことです。神奈川県水産業振興に貢献するため、今後も継続的な漁業調査を行っていきます。